

(セミナー名称) 2019年度第5回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2019年度第5回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2019年11月17日山形県立中央病院にて、2019年度第5回がん化学療法セミナーを開催した。</p> <p>一般演題では、山形県立中央病院 薬剤部 小野裕紀先生より「抗がん剤による皮膚障害に対する取り組み」と(株)アイン薬局 古川紗衣子先生より「化学療法における患者さんに寄り添う薬薬連携のあり方」と題してご講演頂いた。また、特別講では、東北大学病院 薬剤部 菊地正史先生より「業務・教育・研究を基盤とした最適ながん化学療法構築への取り組み」と題してご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2019年11月17日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>50名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>山形県立中央病院 薬剤部 小野裕紀先生より「抗がん剤による皮膚障害に対する取り組み」と題して、代表的な皮膚障害であるざ瘡様皮疹、手足症候群、爪囲炎などについて予防方法や治療方法についてご講演頂いた。使用薬剤により注意すべき皮膚症状は異なるが、いずれの場合も保湿剤による予防が重要であり重篤化しないために院内の多職種連携や保険薬局との連携を行うための自施設でのこれまでの取り組みについてご講演頂いた。(株)アイン薬局 古川紗衣子先生より「化学療法における患者さんに寄り添う薬薬連携のあり方」と題して、トレーシングレポートや院外処方せんの検査値をもとに化学療法施行時の副作用対策について自施設での症例をもとにご講演頂いた。</p> <p>東北大学病院 薬剤部 菊地正史先生から「業務・教育・研究を基盤とした最適ながん化学療法構築への取り組み」と題して、がん化学療法における薬剤師の関わりについてご講演頂いた。がんゲノム医療中核拠点病院である自施設でのゲノム医療の実際の流れを解説頂き、エキスパートパネルでの薬剤師の役割について解説頂いた。また、プロトコル審査における薬剤師の確認事項や承認されたレジメンに基づく処方監査の実際についてご講演頂いた。講演の最後には、自施設でのがん化学療法に関する臨床研究について、実際の症例を提示して頂き血中濃度推移と治療経過についてこれまでの基礎研究を含めて解説頂いた。</p>		

病院薬剤部と保険薬局との薬薬連携についてその重要性を再確認した講演会であった。また、安全な化学療法施行のためのプロトコール管理などこれまで行ってきた業務について再度その重要性を認識したセミナーであった。

【当日の会場の様子など、写真を添付ください】

